

心もお腹もあつたか



みんなでもちつき。「ヨイショー！」のかけ声に合わせて、力いっぱい杵(きね)を振った＝2日、西区坂井東3の坂井東三丁目自治会館

N I C 寺尾でもちつきイベント

親子100人 手作りおももち楽しむ

新潟日報N I C寺尾(浦野武士所長)は2日、もちつき大会を新潟市西区坂井東三丁目自治会館で開いた。自店イベント「学習田」の締めくくりに、親子約100人が参加して温かいおももちに舌鼓を打った。



親子らは雨空の下、同会館外のテント内で「ヨイショ、ヨイショ」と掛け声を掛けながら、順番におもちをついた。早速会館内で「あっこ、きなこ、のりをつけたもちをあつたか」と「おいし〜い」と味わった。「学習田」は、N I C寺尾が年間を通じた農業体験から地域への愛着をはぐくんでらおうと、読者の親子五〇組を募ったイベント。参加者は魚貝イーター近くの一反の田んぼ(石渡勝春さん提供)で、五月に田植え、九月に稲刈りを体験してきた。

イベントを締めくくるもちつきでは参加者たちの息もびったり。西小針台の竹田明生さん(小学校二年生)康乃さん(五歳)の兄弟は「餅つきは二回目。思ったより重くなかった。また来年も参加したい」と笑顔で話していた。

食後には、ミニ写真会でアニメなども楽しんだ。もちつきの様子は、会場に駆けつけた新潟日報の号外発行君「かける君」でさっそく編集、カラー印刷され、参加者に配布された。

